

地域で支え合うしくみづくり

～認知症サポーター・キャラバン・メイトのチカラ～



羽後町地域包括支援センター
社会福祉士 伊藤和恵

羽後町について

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
総人口(人)	15,788	15,549	14,335
高齢者人口(65歳以上)	5,487	5,500	5,531
構成比(%)	34.8	35.4	38.6

羽後町は秋田県南部に位置する町で、キャッチフレーズは「緑と踊りと雪の町」。

県内屈指の豪雪地帯であり、山間部の積雪量は2メートルを超えることもしばしば。

主要産業は農業。米はあきたこまちの生産量が多く、西又葵の美少女イラストがJAうごの米袋に使用され、爆発的に売れ、現地バスツアーも組まれるほどの話題となる。

また、西馬音内盆踊りは日本三大盆踊りと称され、毎年10万人以上の観光客が訪れる。



羽後町認知症にやさしいネットワーク形成事業 H20～
認知症地域支援体制構築等推進事業モデル地域 H22～
認知症地域支援推進員 H28～
認知症初期集中支援チーム 平成29年～

認知症予防

- 若竹元気くらぶ H20～
- うご脳若返り教室 H22～

早期発見・ 早期治療

- ファイブ・コグ検査 H20～
- もの忘れチェック機器 H21～
- 早期の段階から診断・相談・対応へ

悪化防止

- 学習療法 H22～
- 認知症ケアに関する研修会の実施 H21～

適切な 支え

- 家族介護者教室やケアスタッフ研修など在宅の介護を支えるための研修 H18～
- キャラバン・ラジオ屋など地域のカ・支える力の強化(うごまちよりそいネットワーク模擬訓練、サロン活動など) H22～
- 連携調整支援機関としての地域包括支援センター
- 多職種連携専門職チームの養成(H28～認知症ライフサポート研修)

認知症の 理解

- キャラバン・メイト養成研修 H21～
- 認知症サポーター養成研修 H20～
- 認知症サポーターステップアップ研修 平成29～
- 地域資源マップ作成 H22～ ケアパス作成 平成29～
- 当事者も参加する活動への支援
- 認知症カフェでゆるやかな学びの場の提供 H28～

地域で支え合うしくみづくり ～認知症サポーター・キャラバン・メイトのチカラ～

今回の羽後町の報告は・・・



町から求められている推進員の役割 発注伝票は以下のとおりです

関係機関、医療機関、
インフォーマルサービ
スとの連携の強化

認知症サポーターの
養成、スキルアップ、
キャラバン・メイト研修

「気付いてつなげる地
域の力」を高めるべく、
SOSよりそいネットワ
ーク事業等の充実

認知症ケアパスの活
用について普及を図
り、認知症高齢者及
び家族の支援を

認知症サポーター養成講座開催状況

3名の地域包括支援センター職員が、キャラバン・メイトとして平成20年度春から活動スタートさせる。



民生児童委員、教育委員会、社会福祉協議会、JA女性部、老人クラブの総会にて認知症サポーター養成講座開催への協力を呼びかける。

なじみの関係機関へのPRにより、認知症サポーターが養成できたが…
1年で先細り感あり

認知症サポーター養成講座開催状況

1年で先細り感あり(この先どうする?)



平成21年度から

「キャラバン・メイト養成をわが町で！」

福祉関係者、民生児童委員、商工会、学校、消防、銀行、JA、タクシー、警察、郵便局など多方面の機関を対象にキャラバン・メイト養成を行う。

結果、メイトを窓口としてさまざまな団体にサポーター養成講座を開催可能となる。

羽後町の認知症サポーター・キャラバンメイト養成状況 (平成30年9月30日現在)

	羽後町
総人口	15,343
キャラバン・メイト	346
サポーター	2,677
総人口に占める割合	19.703%
ひとり当たり担当高齢者	1.8

うごまちキャラバン・メイト認知症サポーター協会 (住民団体)ができるまで

平成20年3月
横浜市視察

- 住民キャラバン・メイト
- ファイブ・コグ検査

平成20年度
認知症サポーター養成講座を関係機関に実施

平成21年6月
キャラバン・メイトを養成
同10月 住民メイトのつどいを開催

平成22年
12月に協会設立へ

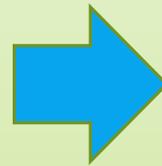
利用しない手はありません

認知症サポーター養成講座

キャラバン・メイト養成研修



キャラバン・メイト養成・認知症サポーター養成を実施するにつれて...



羽後町唯一のタクシー会社

(専務がキャラバン・メイト 全社員がサポーター)

社員一人一人が認知症サポーターとしての

視点をもったことで、「最近同じ買い物をしていくひとり暮らしのばあちゃんがいる」

「年寄りじゃないけど、心配な男性がいる」など地域包括支援センターに情報を寄せてくれる存在に。



西馬音内商店会

事務局長がキャラバン・メイト



羽後町の中心地の商店会のみなさんが認知症サポーターに(約50店舗)

お年寄りが頼りにできる商店ばかり

薬局、魚屋、八百屋、電気屋、食堂、時計屋、クリーニング店、理美容室・・・

ちなみに

西馬音内商店会の事務局長は民生児童委員

矢野洋品店のご主人は若竹元気くらぶオリジナル体操の音楽制作担当

理美容協会

協会の役員がキャラバン・メイト



「理美容協会の研修の時に認知症サポーター養成講座を
全員に受講させよう」と地域包括支援センターに提案

さらに！！

ご自分の店の前にオレンジくるくる

(オレンジポール)を設置

町の話題になりました。



※2010年3月発行 全国キャラバン・メイト連絡協議会発行 認知症サポーター地域づくり事例集 活動する認知症サポーター 56ページをご覧ください。

羽後高校

教員・養護教諭がキャラバン・メイト
のちボランティア部の高校生もキャラバン・メイト

地域包括支援センターの下手な紙芝居にも熱心に見入ってくれました

ボランティア部から

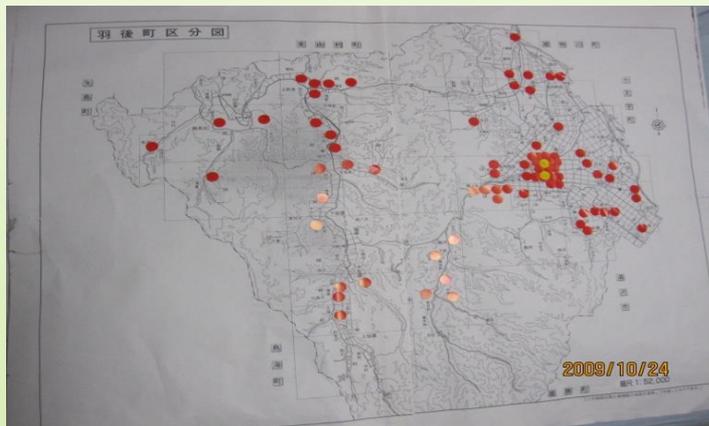
「ぼくたちも紙芝居つくりました」

をきっかけに認知症サポーター養成講座
協力隊員に！



この活動がきっかけで全国でもめずらしい(当時)高校生
キャラバン・メイト養成へ……。

キャラバン・メイトのつどいを かさねてきました



平成22年10月20日 キャラバン・メイトのつどい

住民メイト 報告 抜粋

メイトやサポーター同士を結び付ける場所があるといいと思った。産直ふれあい市場で認知症について啓発活動をし、チャリティバザーを若竹元気くらぶのみなさんとやってきた。その市場がなくなるということで、西馬音内商店街で空き店舗はないか、・・・とさがした。ついにその場所もみつかった。近日運営委員会をひらき、メイトやサポーター協会を設立したい。



平成22年12月14日 ついに！
うごまちキャラバン・メイト認知症サポーター協会設立
協会の役員をご紹介(設立時)

会長	元保健師 仏具屋
副会長	若竹元気くらぶ代表
副会長	民生児童委員
事務局長	西馬音内商店会
会計	若竹元気くらぶ
幹事	羽後高校ボランティア部顧問 ケアセンターみわ管理者 うご脳若返り教室学習サポーター 公民館職員 健康推進委員
監事	自転車屋 元郵便局員



※太字以外はすべて住民キャラバン・メイト

住民キャラバン・メイトの力で 平成23年 キャラバン・ラジオ屋誕生！



「認知症の高齢者を見守ることは、町そのものを優しくつくり変えることだ」

うごまちキャラバン・メイト

認知症サポーター協会前会長 佐藤美智子さん

「『言わないこと』を『知らないこと』にしてしまうと町は変わらない。たとえば、お年寄りには荷物が重くても『重い』とは言わないことが多いんです。そんなとき、言われなくても手を貸す気遣いをもてば、町は変わっていくはずです。」

※家の光 東日本版 2014. 10

認知症介護ルポ

「一人一人が手を差し伸べる町」より



キャラバン・ラジオ屋

キャラバン・火曜サロン



認知症カフェ
(一般OK)

研修会
(会員むけ)

総合相談日
(認知症の人とその
家族)

役員会
(役員)

うごまちSOSよりそいネットワーク

当初 地域包括支援センターが主催し、会議を開催し、ネットワーク構築を、と考えていた。

生活環境課で防災無線を利用した行方不明者搜索ネットワークがすでに確立しており、このネットワークに地域包括支援センターが参入していく路線に変更

しかし、平成25年度に新しいうごきが、住民から……

会員の自己研鑽と行動につなげる研修

(平成24年度開催)

- ①「認知症の入り口にいる人とはどんな人？」
- ②「認知症の人への対応」もし道がわからなくなっている認知症の高齢者をみかけたら、私たちはどうしたらいいの？



地域包括支援センターで
できなかった行方不明者
SOS模擬訓練を私たちが
やってみない？

住民キャラバン・メイト主催の SOS見守りネットワーク模擬訓練



平成25年度のうちまちキャラバン・メイト認知症サポーター協会総会にて今年度の新規事業として挙げられる。(毎年5月に行われる総会)

協力機関として

羽後町、羽後町地域包括支援センター

社会福祉協議会、町教育委員会、警察・消防機関



うごまちSOSよりそいネットワーク模擬訓練(平成25年度～)



NHK社会福祉セミナー
2019年4～9月(5月
25日放送予定)
「地域福祉活動の
実際」 見守るお守り
菱沼幹男先生



認知症の人と その家族を支援する事業

認知症の人とその家族を支える地域の人材、サービス拠点についての情報を掲載した地域資源マップの作成・普及、更新（H22～）

認知症ケアパス作成（平成29～）

認知症初期集中支援チーム（平成29～）

安心・安全なまちづくり

パトロール隊と地域包括

支援センターの定期的な

情報交換（月1回）

（一人暮らし、二人暮らし等約340世帯）



医療・介護等の有機的な連携の推進 認知症ライフサポート研修 H28～H30年度実施



平成29年度からは
医療・介護の専門職だけでなく
住民キャラバン・メイト、
民生児童委員も研修に参加！
「備え型の支援」をともに考
えるきっかけに

羽後町の認知症カフェ その1 キャラバン・ラジオリ屋



住民キャラバン・メイトが

「キャラバン・ラジオリ屋」という交流スペースを自主運営（H23年～）

軽度の認知症の人もお茶出し当番やバザーのスタッフとしての役割がある

買い物帰りの地域のひとや商店会、医療・福祉の専門職や行政が参加・交流している

総合相談では家族が、近所のひとが普段の心配ごと、不安などをはなす時間がある

地域の住民に認知症のことや認知症ケアについて知る研修会を開催している

**それってもう、
すでに認知症カフェ！？**

羽後町の認知症カフェ その2

おさんぽオレンジかふえ誕生



認知症予防活動グループ若竹元気クラブが

仙台市「土曜の音楽カフェ」を視察

「自分たちも認知症カフェの活動に参加したい」という会員の声が・・・

以前から、若竹元気クラブの会員のひとは老舗の食堂を経営。病院
帰りの高齢者にお茶をだし、そこは、楽しい「お休み処」になっていた

町立病院の近くの食堂・・・公園、川原の散歩コースもある



医療・福祉の専門職を
ゲストに迎えてのランチタイム
認知症カフェ ハイブリット型!?

羽後町の認知症カフェ その3

認知症予防活動グループ若竹元気くらぶ運営

おさんぽオレンジかふえ誕生

朝日新聞の新聞記者のミニ講演

焼肉丼をほおぼりながら聞いていたら・・・

「高齢者の運転免許返納ってつらい話よね～」という話題が。

電車が無い町 羽後町 バスは一時間に1本・・・

コミュニティバスの案も現在検討中ですが、「生活の足である車をそう簡単にあきらめられないのです！」

自動車学校に気軽に運転の練習
とかできるのか聞いてきますね
～(推進員イトウ)

羽後町の認知症カフェ その3

「うごまちハッピー運転教室&Dカフェ」(羽後自動車学校と共同企画)

「ちょうどいい」を
提案したい！

羽後町では、車の運転する力を維持することは「生活の足を守る」こと

認知機能や運転能力に不安を抱えながら

更新期間を待つみなさんに

「生活の足を守るための備え型の支援」として

「うごまちハッピー運転教室
&Dカフェ」を提案します！



うごまちハッピー運転教室&Dカフェ の主な内容

Dカフェ
タイム

- コーヒーを飲みながら、まずは「視力検査」と「もの忘れチェック」そして認知症を知る時間
- 高齢者の運転特性について学ぶ時間



実車訓練

- 教習所内のコースを使用し、**実際に運転**。(指導員からの客観的な評価、助言)



推進員としての活動の課題

推進員となる前から、地域包括支援センターの職員として積み上げてきた資源を十分にいかしているのか

認知症の人やその家族の声を十分に聞き取り、施策に反映させているのか

行政をはじめ関係機関との連携は本当にとれているのか、ただの自己満足ではないのか



今後の活動・取組について

移動販売車

見守り事業

おかげさま
スーパー

地域おこし協
力隊

企画調整課・
生活環境課

認知症地域支援推進員として めざすところは

認知症の発症予防

認知症の早期発見

認知症の重症化を防ぐ



認知症の診断を受けた人だけでなく

「誰もがいきいきと安心して暮らせる

そんな羽後町にしたい！」



うごくまち 羽後町！！

これからも

地域のみなさまと共に歩んでいきます

それぞれの持ち味を生かして

それぞれの世代の強みを生かして

「うごくまち 羽後町！！」

ご静聴ありがとうございました。

